

「将来、世話になる」ということ



未婚で子供のいない人や子供のいない夫婦が、老後とその先のことを考えたときに、世話になるかもしれない選択肢として挙がってくるのが甥や姪です。まず考えるのはきょうだいでしょう。しかし同年代のきょうだいは同時に歳を取り、自分が世話を受けることを必要とする時期には、きょうだいも同じ状況になっているかもしれず、どちらが先か分からないので、あまり期待することはできません。そこで、下の世代である甥姪が有力な選択肢となります。

しかし、長く一緒に暮らしていたなどの特別な事情がない限り、近年の甥姪と叔父叔母との関係性は、無条件で世話をする・世話になるというものとは異なる次元であることが多いようです。互いに仲違いをしている訳でなく、通常の親戚関係であったとしても、甥姪に老後や死後の面倒を見てもらうということについて、改めて話し合いをして合意を得るということをしている人は、あまりいないと思います。

世話になる側の叔父叔母からすると、「迷惑なのではないか」と不安になる一方で、「他人に頼むと知ったら、水くさいと逆に嫌な思いをさせるのではないか」と考えてしまい、なかなか切り出せずにいる。

世話を頼まれる側の甥姪からすると、「出来ることはしてあげたいけど、何をすれば良いかわからない」「自分の両親、配偶者の両親に加えて、独身の叔父叔母の面倒をみれるのだろうか」「どのくらいの負担なのか、想像もつかない」という意見が多い。

ここに意識のギャップが生まれているケースが多いのではないのでしょうか。

このギャップを埋めるためには、しっかりとした「対話」を行うしかありません。世話を頼む側も頼まれる側も、遠慮が先に立って具体的な話をしないままだと、実際にその時が訪れた場合に「こんなはずではなかった」と後悔してしまう可能性もあります。

まずは、お互いにどんなことが起こり得るのか、時間的・経済的にどのくらいの負担が掛かるのかをしっかりとシミュレーションし、甥姪本人だけでなくその配偶者等の家族からの理解が得られるのかも、確認しておかなければなりません。

その上で、「大丈夫、叔母ちゃんの面倒は俺が見るよ」と太鼓判を押してくれる甥っ子であれば、世話を頼む側としては、遺言を書いておくなどして遺産がその甥っ子に渡るような手筈を整えておくことも考えるべきでしょう。

「現時点で、出来ることはしてあげたいけれど、すべて負担する自信がない」という答えの甥姪であっても、決して気落ちしないでください。当たり前の答えです。今の時代の甥姪世代は、皆、共働きで、仕事をしながら子育てをし、自分の親と配偶者の親の面倒もある。とても忙しく負担が大きいのです。その場合には、甥姪に負担が掛からないような備えをしておかなければなりません。

しっかりとした「対話」を行うことで、今、やらなければならないことをハッキリさせて、将来に対する漠然とした不安を取り除いていくことが大切です。 つづく